

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
R元入学 現3年	78.8			69.2		
	(1.16)			1.11		
		64.8			56.2	
		(1.04)			1.12	
			66			61
			(1.06)			1.08
R3 正答率の全国比			1.02			1.06

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

**学習状況調査【国語】から読み取れる実態**

- ・ 学習指導要領の領域別では「読むこと」が全国平均を下回っている。
- ・ 4領域（話す、聞く、読む、書く、言語）において全国平均と比較しても突出して得意な領域や苦手な領域はない。
- ・ 「読む」領域の中でも選択式の正答率が低い。

**学習状況調査【数学】から読み取れる実態**

- ・ 領域別にみると、「関数」の領域が低い結果となった。
- ・ また、問題別にみると以下の問題に課題がある。  
3【図形】、4【関数】、6(3)【数と式】、7(2)【関数】、8(2)【資活】、8(3)【資活】  
9(2)【図形】、9(3)【図形】
- ・ 説明に関する問題は、県や全国に比べて高いものの、無解答の割合も高い。

**意識調査から読み取れる実態**

学校という場所に登校し、周りの友達と仲良く授業を受けることはいいとは思いつつも、人前での失敗を恐れたり、自分が人からどのように思われているのか人目を気にしたりしている。これらは人間関係が固定されている現況から出てきていることが予測される。人の意見を聞くことも低い傾向にあり、課題設定能力にも影響が出ているし、それらを解決する能力も併せて低い傾向にある。また、自己肯定感も低い傾向がわかることから日常生活でワクワクするようなことを期待することもなく、淡々とした生活を送っている生徒が多い傾向も読み取れる。ICT機器の利用については、マイナスな傾向はないが、自主的に取り組む課題についてはあまりうまく取り組めていない状況である。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・全国的にも本校においても「読む」力が低いため向上に努めたい。
  - 具体的に、「読むこと」の中でも選択問題に力を入れる。そのために、文章の中のどの範囲から情報をえるのかを決定させたり、選択肢と本文を対応させたりすることを授業の中で指導したい。また、学習課題の設定を工夫して「深い読み」ができるように活動を仕組む。
- ・説明する力が弱い
  - 何をかいたらよいかわからないことが考えられる。
  - そのため、受け答えをする練習を授業の中に取り入れる。
  - また、問題の中で聞かれている内容を整理する活動を取り入れる。
- ・学級活動や道徳の授業を使って自己肯定感の高まるような題材を取り扱っていく。
- ・話し合い活動を増やすこと。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・新聞などの説明的な文章を読む機会を増やす。
- ・文学作品を読み慣れさせて、優れた描写に多く触れさせる。
- ・自己表現の場を設定する。(コミュニケーション能力を高める。)
- ・学校生活の中で、これまでに身につけた知識や技能を活用して、自ら行動できる力を身に付ける
  - 自己決定の場を設定する。
- ・生徒会など、生徒たち自らが発案した企画を日常生活に取り入れたりして、日々の生活に活力が持てるような取り組みをする。